キャラクター名: ヤットルッド ＝ ハクヴィニウス

プレイヤー名:

種族	ドワーフ	種族特徴	暗視、剣の加護/炎身		
生まれ	練体師	性別	♀	年齢	32
冒険者Lv	5	経歴	魔神を見たことがある		
経験点	0		死者と会話したことがある		
			純血である		

		能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス
技	5	器用度	15	1		21	3
		敏捷度	5			10	1
体	9	筋力	11	4		24	4
		生命力	11			20	3
心	6	知力	5			11	1
		精神力	10			16	2

技能	Lv.	技能	Lv.
ファイター	1		
プリースト/騎士神ザイア	5		
レンジャー	1		
エンハンサー	1		
バード	1		
アルケミスト	1		

戦闘特技			
魔法拡大/数	226 p		p
かばう	224 p		p
防具習熟/盾	222 p		p
	p		p
	p		p
	p		p
	p		p
	p		p
	p		p
	p		p
	p		p

言語	会話	読文
交易共通語	○	○
ドワーフ語	○	○
汎用蛮族語	○	
魔動機文明語	○	○

練技/呪歌/騎芸/賦術	
ビートルスキン	
モラル	
バークメイル	

名誉アイテム	点数

名誉点 所持 0 /合計 0

技能

	技能レベル	基本命中力	基本回避力	基本追加ダメージ
ファイター	1	4	2	5
グラップラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾

		ランク	必要筋力	回避力	防護点
鎧	プレートアーマー		21	-2	7
盾	グレードウォール		17	-1	3
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)					1
回避技能	ファイター		合計値	-1	11

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
モール	2H	20	1	2d+ 5	12	5	35										
				2d+													
				2d+													

一般装備品	(消耗チェック)
冒険者セット	○□□○□□
救命草x3	○□□○□□
魔香草x3	○□□○□□
緑Aカードx3	○□□○□□
緑Bカードx3	○□□○□□
楽器(アコーディオン)	○□□○□□

	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□

所持金 10 G

預金・借金 G

制限移動	通常移動	全力移動
3 m	10 m	30 m

回避	防護点
2d+ -1	11

HP
35

魔物知識/弱点	先制力
2d+ 0/×	2d+ 0

生命抵抗	精神抵抗
2d+ 8	2d+ 7

MP
31

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
神聖魔法	5	6			

装備品	説明
頭	
耳	
顔	
首 聖印(ザイア)	
背中	
右手	
腰 アルケミーキット	
足	
その他	

装備品	説明
左手	

その他メモ

グレンダールの祖先という由緒ある一族ハクヴィニウス家。その一族は騎士神ザイアを信仰し、騎士の一族として知られていた。ヤットルッド ＝ ハクヴィニウスも例外ではなく成人になったら一族の掟として騎士になる予定だったがヤットルッド はその掟を破った。何故なら誰かを守るなんて面倒くさいことなどしたくないからだ。自身は選ばれた者だ。最近親身に交友を交わしていた貴族や騎士が行方不明になっていようが知ったことではない。綺麗なドレスを着て、誰の指図も受けないと思い自由に使える富を散財し豪遊していた。

騎士が駄目ならば兄弟や従兄弟の嫁になり子を作るように言われたがそれも破った。何故なら自身に見合う異性がまったく居ないからだ。そんな状態で嫁に行く気などなかったからだ。そもそも純血を保つためにそんなことを平気で行う一族も大概であると思っていた。そんな我侭が何時までも通用するほどこの世界は甘くは無かったことにも気づかずに・・・。

ある日のこと、自身は見たことのない牢屋の中で目を覚ます。布一枚で出来た服といえないような服と頑丈な枷を四肢に取り付けられ、鎖の付いた首輪と猿轡を付けられ身動きが取れない状態になっていた。そして自身の数倍はあろうかという魔物は自身の首輪の鎖を無理やり引っ張り上げ、体が幾ら床に擦れようが首が絞まって息が出来なくなろうがお構いなしに引き連れた。そして息が出来なくなり微かな意識の中、どこかの壇上に設けられた牢獄の中に入れられ、もはや何も無いような身包みを剥がされた後に沢山の眼に見られ続けながら意識が落ちて

自動失敗チェック

□□□□⑤
□□□□⑩
□□□□⑮
□□□□⑳
□□□□㉕
□□□□㉚
□□□□㉟